

相談援助の現場と未来を見つめるリードマガジン

2026
June 6

月刊 ケアマネジャー

注目連載

チーム力を引き出す
ケアマネのための
ファシリテーション講座
大村美樹子

おかえモンと学ぶ!
身寄りのない人への支援
岡江晃児

[INTERVIEW] LIFE
松浦弥太郎

地域包括支援センター

地域包括
支援センター

第2特集

シリーズ「編集部がゆく!」
ひろがる
事例検討会

特集

ケアマネ基本スキルアップシリーズ (6)

支援のモヤモヤの言語化から気づきにつなげる

スーパービジョン

「ケアひろば」
に掲載
読者投稿
募集中!

採用者には
謝礼を進呈

現場で頑張る
あの人を訪ねました

Focus ON

vol. 15

等身大のケアマネジャーが毎月登場。
仕事に対する思いを聞きました。

ケアプラン秋津

[千葉県習志野市]

と き も と
荒木時元さん



“地域と職場、そして自分自身の成長を目指す”

「ありがとう」の言葉が仕事の原動力に

居宅介護支援事業所の管理者を務める荒木さん。福祉系の専門学校出身の荒木さんは、群馬県の療養病床で介護職として7年間勤務した後、ケアマネジャー(以下、ケアマネ)の資格を取得。その後は居宅ケアマネー筋でキャリアを形成してきました。

「相談援助の経験を重ねることに尽きますが、利用者・家族が話しやすい雰囲気をつくることを特に心がけています。表情、声の大きさ、抑揚、話すスピードを相手に応じて微調整しながら、安心感を与えられるように意識します。感謝の言葉がやりがいです」

荒木さんは自由な社風に惹かれて、2024年4月に現事業所に入職。担当利用者の支援はもちろん、管理者として職場マネジメントにも目を配ります。

「キャリアステージが異なる6名のケアマネが在籍し

ています。時には冗談も言い合えるような、和気あいあいとした雰囲気の職場が理想。困りごとはないかなど、職員への積極的な声かけは欠かせません」

市内のケアマネのネットワークを形成する

荒木さんは、2017年に「習志野市ケアマネ連絡会」を立ち上げ、同会の会長を務めています。市内130名のケアマネが所属し、研修会(年4回)や認知症カフェ(年1回)の開催をメインに活動中です。

「会としては、若い世代がより参加しやすくなるような工夫を考えているところです。私個人としては、謙虚な気持ちを持ち続けることが目標です。この年齢になると、誰からも何も言われなことが多くなりますが、相手の話や教えを受け入れ、吸収しながらこれからも成長を続けていきたいです」

FB

荒木さんを

さらに深掘り!

Q. 仕事の必須アイテムは?

A. 手帳です

基本デジタル派ですが、仕事では紙の手帳を愛用しています。訪問の予定を管理したり、モニタリングでメモをとる際に大活躍。利用者の変化をさかのぼって確認できます。自由に書き込めるメモ欄が多いこと、サイズが大きい点が入っていて、長年同じタイプをリピートしています。

